

解 説(あらすじを中心に)

豊竹 咲寿大夫

菅原伝授手習鑑

寺入り の 段

豊竹 芳穂大夫
野澤 喜一朗

寺子屋 の 段

竹本 千歳大夫
豊澤 富助

(人形役割)

菅秀才	桐竹勘次郎
よだれくり	吉田玉勢
女房戸浪	桐竹勘
女房千代	吉田和
一子小太郎	桐竹勘
下男三助	吉田簀
武部源蔵	吉田玉次
春藤玄蕃	吉田玉也
松王丸	吉田玉輝
御台所	竹勘十郎
手習子	竹紋臣
駕籠	大い
百姓	大い
捕手	大い

釣 女

榎茂都陸平 振付

(人形役割)

太郎冠者	吉田文司
豊竹 咲甫大夫	吉田文志
豊竹 睦大夫	吉田玉
豊竹 咲寿大夫	吉田一
豊竹 靖大夫	吉田勘
豊竹 宗助	吉田勘
竹澤 龍爾	彌
豊澤 龍爾	彌
鶴澤 燕二郎	彌
鶴澤 清允	彌

望月太明藏社中

字幕表示がございませう(席によっては字幕が見えにくい場合もございませうのであらかじめご了承下さい)。

■菅原伝授手習鑑 ■ 尽きることのない悲しみ

浄瑠璃三大傑作のひとつで、延享3年(1746)、竹本座で初演。竹田出雲(初代)のもと、並木千柳、三好松洛、竹田小出雲(二代出雲)が合作した五段の時代物です。今回ご覧いただく四段目では、若君を救うために我が子を犠牲に差し出した夫婦の悲しみ、幼子の命を奪わねばならない夫婦の苦悩が描かれます。

左大臣藤原時平の讒言により罪人として捕らわれた右大臣菅原道真。その若君を時平から守るのは、道真の書の高弟で寺子屋を開く武部源蔵。しかし、ついに若君の存在が露見、首実検に現れたのは時平の舎人松王丸。道真の恩を受け、若君の顔をも知る男でしたが、源蔵は、一か八か、この日、寺入りしたばかりの子供を身代わりにする。見破られれば、松王丸に斬りつけ、最悪の場合には若君もろとも死ぬ覚悟で、首を松王丸に見せる源蔵。首をじっと見つめ、若君と認めて立ち去る松王丸。源蔵がほっとしたのも束の間、子供の母が迎えに……。この女も殺さずばなるまいと斬りかかった源蔵の耳に、息子は身代わりとして役に立ったかとの意外な言葉が。女は松王丸の妻。やがて松王丸が姿を見せ、恩のある道真の若君を救うため、我が子を身代わりさせるつもりで源蔵のもとへ寺入りさせたことを明かすのでした。

首実検での緊迫感、子供がにっこりと笑って首を打たれたと聞いた松王丸の悲痛な泣き笑い、"いろは送り"と呼ばれる子供の野辺送りの場での松王丸夫婦の深い悲しみと情愛など、見どころ、聞きどころにあふれた人気演目です。

■釣女 ■ 恋の手本？

狂言『釣針』をもとにした常磐津を義太夫に移し、昭和11年(1936)に四ツ橋文楽座で初演された愉快な作品です。

独身の大名と太郎冠者が、釣好きの西の宮の恵比須さまに妻を授けてほしいと願って与えられたのは、釣竿。これで妻を釣れとのことか……。さっそく試して、絶世の美女を手に入れた大名。二人の仲睦まじさを見た太郎冠者、次は自分の番だと気合を入れて竿を手にすると、かつぎ被衣姿の女性が針先に。大喜びして変わらぬ愛を誓い、太郎冠者が被衣を取ったところ……。

太郎冠者の「悲劇」をお楽しみ下さい。